

この原因としては種々の視点から批評し得ようが本学の学生が従来から法律を極度に嫌ふ傾向と又卒業生が法律的知識のない点で非難を受ける欠点を一応如実に物語るものと思はれ、又一方法律学方面の試験が多くの意味で重荷である等の性質も可成りに影響してゐるものと思はれ、本学の将来に対して問題を投じてゐる、又一般に学生の多数が経済学科を希望してゐるにも拘らず商業学科が半数以上占める原因についても各方面から批判し得るものと思はれる。なほ科目中二学年の選択者数が比較的多い科目は外国為替、取引所、鉄道、商品、世界経済論、商業政策、農業政策、原価計算、景気変動論、社会政策、経済地理特殊問題、民法特別講義等である。

第三二二号(昭和十一年一月一日)

(2) 学生の動揺遂に極点

累卵の学園を救ふは唯、学長信頼の一途
 全学の総意を受け級委員会活躍

行懸りを捨て更生へ

二月事件勃発後直ちに一橋会理事、三科理事はクラス代表委員会を開き学長の紛争解決方針を信頼し静観を続ける旨の声明書を発表し監視の状態をつゞけてゐたが遂に新学年を迎へる四月に入るも何等解決の曙光さへも見る事が出来ず、学生間にも焦燥の色深くこの事態を憂慮した一橋会理事は学生を代表し去月十一日関西遊説後帰京の途路にある平生文相を熱海の別邸に訪れ別記の如き嘆願書を手交し、他方面よりの容喙を一切排除して文相、学長間において学園更生の打開策を

打建てられんことを懇請し、クラス委員会に報告又翌々十三日官邸において文相に面会、前回懇請の結果報告を行ったクラス委員会の模様を伝へ、一刻も早く解決せらるゝことを懇望し辞去した。この間理事間では学長および先輩如水会員に解決進捗の要請を行ひ努力を続けて来たが去月二十九日学長は四月上旬解決案なるものを文部当局に提出し解決の鍵は既に文相の手中にある事が伝へられ、これ以上遷延して所謂原案なるものが当局において採択されざる場合は三浦学長の進退問題ともなり引いては学内に学長を求めぬ今日一橋学園の危機ともなる事を恐れ、俄然事態は悪転し、学生側では学外より学長を選出するが如き最悪の場合を予測して去月三十日九月事件当時同様三科統制部、交渉部を設けクラス委員会を確立し統制部会、委員会を連日開催し、学長絶対支持の声明を発表した。

一方学生間では十四教授が全学園の信頼せる三浦学長の不信任行為を行ひ学園の平和を攪乱し、鼎の軽重を問はるゝ事態に至らしめたことについては、その意途の如何を問はず、辞表を撤回しその装置を学長に一任するまで十四教授の講義に出席せんと意向高まり、専門部では全生徒一致し不出席を断行、本科にても各人自由意志によるボイコットを申合はせ事態は日を追つて悪化するに至つた。このため去る一日より交渉部では文部当局、各有力先輩を訪問し解決促進を行ひ、尚今日までの経緯を説明し全学生の希望の所在を明かにするため、三日前九時より如水会館において開催された三科統制部会において、明日四日午後三時半より学生大会を開き学長絶対支持を学生の総意において表明せんとするに至つた。同大会の開催は今日まで幾度か大会開催の機運にあり乍ら静観を続け自重して来たが現在ではすでに学生の

総会を明瞭にする必要あり万難を排して決行するものとなつた訳である。

かくて四日統制部では大会を前に九月以来の学内事件の推移と学生運動の主旨を明かにし九月事件と二月事件とは全くその性質において異り、九月事件は全学園あげて負ふべきものであり、今日の事態において学長案の採択せられざる場合は一橋は累卵の危機に瀕する旨の檄文を配布し、学生の猛省をうながし一方学生大会は三浦学長の懇望制止により中止し、学生大会を中止するに至つた経過報告会に変え同日午後四時より兼松講堂にて、三科一千五百名の学生参集のもとに開催した。経過報告後約三十名近くの学生が異議をととなへ、故意に議場を攪乱せんとする如き観を呈したが制止され遂に退場するに至つたが、その後議場に残る千五百の学生は静粛に議事を進め三浦学長絶対支持を披歴したが、少数学生退場を偶然見聞した三浦学長は急遽会場に來り解散を命令した、め統制部は立つて「三浦学長の意途の如何を問はず我等学長を信頼せる全学生は三浦学長の愆愆を容れこゝに経過報告会を終了す」と直言し解散、直ちに全学生の名において一部少数学生の態度を遺憾とし今後絶対にかゝる挙動なきことを望み併せて全学生学長支持の明瞭になつた事を声明するに至つた。

一方専門部三年は野外教練のため出席出来なかつたが富士裾野において三学年全員の名を以て学長支持の決議を行ひ、又万一学外より学長を選び六十年の伝統の破壊される事は学園に止まるを潔とせず退学の意志をも明瞭にし学内に呼応して総意を明かにした。

かくて五、六七連日三科統制部会、クラス委員会を開き各方面に急迫せる事態の陳情を行ひ、九日別項決定を以てクラス委員会において左

の如く決議を行ひ今後従來の行きがかりを一掃して全学教授学生先輩一致して三浦学長の下に復興に邁進し、この努力を惜まざるものは従前の行為を問はず受人れ平和なる学園にせんと希望を披歴し残る十一教授の行動の決定するまで静観を続けることゝなつた。

声 明

本日こゝに三浦学長案が決定するに至りました。既に学長支持以外問題解決への途なしと信じ來つた我々は真に全学一心団体となつて人格清明たる学長治下に研鑽修徳を励んで一橋学園更生に精進しなければなりません。我々は今後自戒自警互に小我を捨て、学内の矛盾衝突を絶対に排除し、一橋の合（不明）造能力を統一して日本文化確立の時運に寄与せんことを期する次第です。

昭和十一年五月九日

統制部

第二二八号（昭和十一年五月十一日）

(3) 郊外移転も空し漸増する退学者

休学者総計三百五十名に上る

開設以来の予科健康調査

学生生活を脅す呼吸器系および神経系統諸病の撲滅については各機関挙げてその対策に腐心してゐるにも拘らず、依然その攻勢は衰へず別表の如き寒心すべき状況を示してゐるが、この程予科事務室では大正十三年予科石神井移転後十二年間の予科休学生徒数および休学事由について発表した。同表を見れば大正十二年大震災を期として健康改善